

## ■「司令塔、夏に鍛える－1部6校のQBたち」番外編

### Xリーグ・オービックに学ぶ

ライスボウル（日本選手権）を8度制したXリーグ・オービックの選手がトップ技術を教える「オービックシーガルズ・キャンプ・イン北海道2023」が8月13日、札幌市清田区の北海学園清田グラウンドラグビー場で開かれ、道内7大学のアメフト部員ら50人が参加。9人のQBもパスの基礎となるフットワークなどを熱心に学んだ。

オービックが道内でクリニックを開くのは8年ぶり。北海学園大出身のWR成田将吾（26）と札幌学院大出身のTEアンダーソン真グレン（24）が中心になって企画したもので、現役選手7人が講師を務めた。午前の体力強化ドリルに続いて午後からはポジション別の指導に。QBユニットでは、北星学園大の中手龍一（4年）ら9人が日体大出身のQB小林優之（27）からパスの指導を受けた。

小林講師が強調したのがパスを投げるときの足の使い方。「両足を肩幅に開き、視線の高さは動かさない。パスポケットの中では細かなステップを」と助言したあと、早速実技指導へ。参加9選手はボールをかまえながら、何度もステップワークの練習を繰り返した。

北星学園大の中手は「下半身の使い方やステップを多めにするなど、知らなかったQBの要素が見つかった」と納得し、釧路公立大の山口響生（3年）は「同じ歩幅で動くことなど足の使い方が参考になった。ドロップバックのポイントも学んだ」と収穫が多かったよう。室蘭工業大の渡邊陸（4年）は「大学の練習ではQBの指導者がいないので、自分のパスフォームをツイッターにアップして助言をもらったこともある。クリニックではフットワークの大切さを知った。自分の技術の中にはなかった」と、専門的な指導を歓迎していた。

